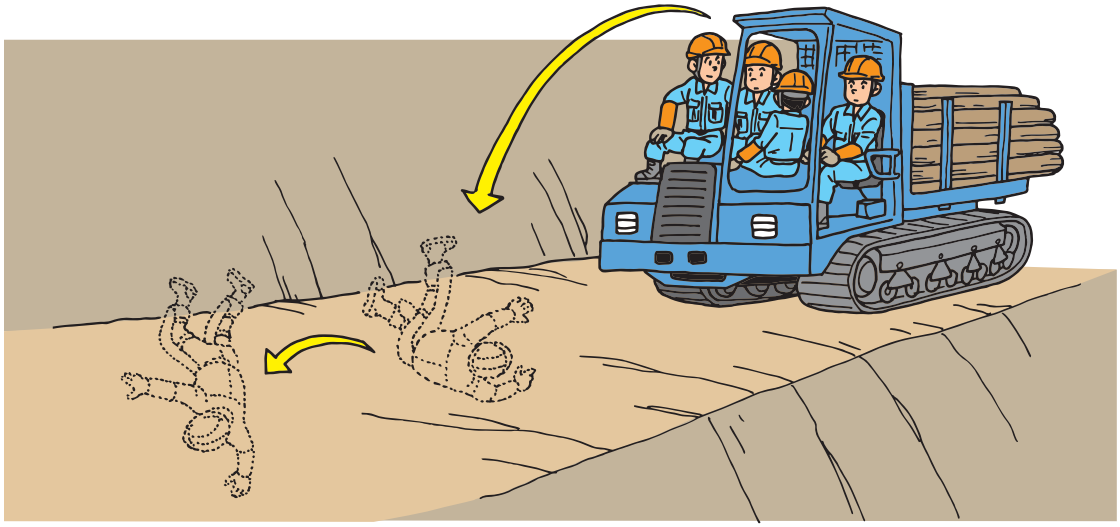
事例演習　No.5

簡易リスクアセスメントの実施事例

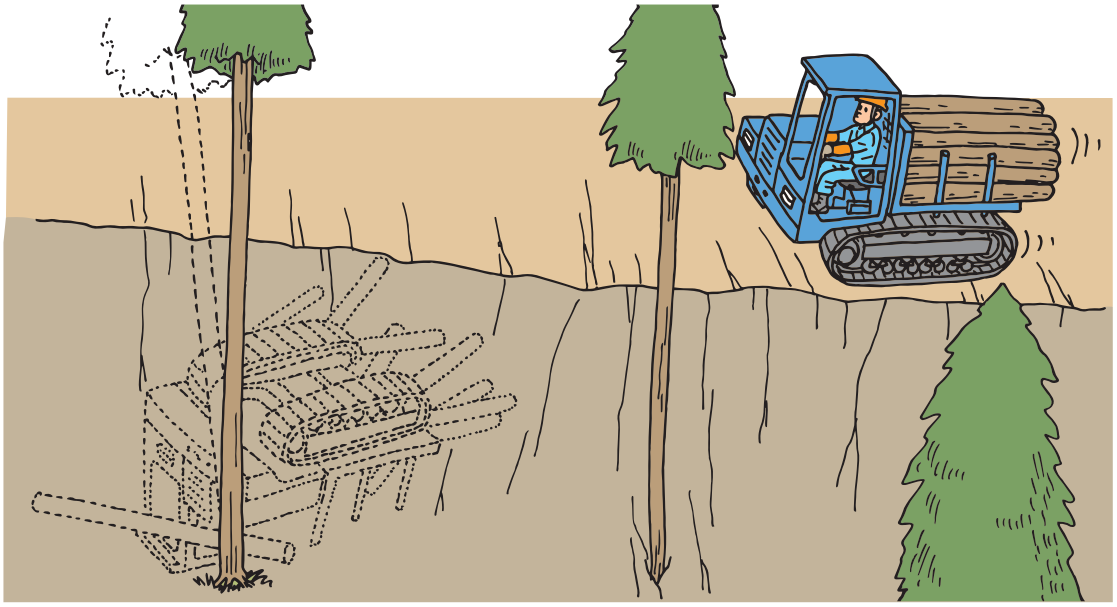
実 施 事 例	走行集材機械による集材作業

作　業　状　況

イラスト①



イラスト②



［ヒント］

簡易リスクアセスメント記録書（林業）

林災防様式

年 月 日（天 候）	26年　9月　20日（天候　晴れ）	作業現場	森田町　民有林131林班	[記録者] 林材育夫
作業内容	集材作業	メンバー	生産班Bグループ（4名）	

作業種		各欄上段の「危険要因の洗い出し」については以下による。 ～するとき	～したので	～（事故の型）になる	可能性	重大性	評価
No 1 [演習] 集材作業 イラスト①	危険の洗出	フォワーダで集材するとき	運転者の他に、同僚を乗車させたので	下り坂で減速したとき、同僚がフォワーダから転落した。	×	×	5
	どうする低減対策		他の作業者を搭乗させない。		○	△	2
No 2 [演習] 集材作業 イラスト②	危険の洗出	フォワーダで集材するとき	作業路の路肩が大雨で決壊していた箇所を通過するとき	幅員が足りずに、フォワーダごと転落した。	×	×	5
	どうする低減対策		① 作業路の幅員は、車両の幅の1．2倍以上を確保すること。 ② 確保されるまで通行しないこと。		△	△	3
No 3	危険の洗出						
	どうする低減対策						
No 4	危険の洗出						
	どうする低減対策						
No 5	危険の洗出						
	どうする低減対策						
No 6	危険の洗出						
	どうする低減対策						
抜本的対策	No 2について	抜本的低減対策 上欄で**リスクレベル2以下に低減しない作業**については抜本的対策を検討すること。	作業路の路肩決壊箇所の修復について、すぐに社長（事業主）に報告するとともに、当該修復工事が終わるまで作業路として使用しない。 また、路肩の盛土が確保されるように、矢板杭を使用するなど、強固な路肩にする。		△	○	2

[備考]
現場責任者はすぐに作業をストップして、社長と連絡をとるため携帯電話を行ったところ、社長（事業主）と連絡がとれたため、路肩決壊について報告したところ、フォワーダによる集材作業のストップ指示があった。
現場責任者より、班の作業者全員に伝え、作業路を通行止めの表示を行った。

[早見表]

災害の可能性

可能性ランク	記号
かなり起こる	×
たまに起こる	△
殆ど起こらない	○

災害の重大性

重大性ランク	記号
極めて重大	×
重　　大	△
軽　　微	○

リスクレベルの対応

リスクの見積り	リスクレベル	リスクへの対応
××	5	即座に他の方法へ回避（最優先実施）
×△　△×	4	抜本的対策を実施（優先実施）
○×　×○　△△	3	何らかの対策を実施
○△　△○	2	特に対策の必要なし（残留あり）
○○	1	対策の必要なし（残留あり）